

名所

追ふを見るに、馬卒に男子は一人もなく、婦人のみ也、一人して五疋も七疋も放し綱にて追ふに、皆々女馬とは云ながら、刳合食合もせず、無爲の馬也、男子牛を遣ふ、手にて山分の材木を牛にて引出す也、牛の大トさ、大津の車牛の如し、かくの如きの地、車の上にか程大成材木にても載置、道の峻しきもいとはずして、牛に引する事也、國風とは云ひながら、無調法なる事也、

〔日本鹿子 十四〕同國 隅 大 中名所之部

風の森 當國はさして名所なしと舊記にも見へたり、風の森、大隅郡の内也、うたに

恨みじな風の森なる櫻花さこそあたなる色にさくらめ

後瀬山 青葉山 夕暮の關 氣色の森

〔日本書紀 二十九 天武〕十一年七月甲午、隼人多來貢方物、是日大隅隼人、與阿多隼人相撲於朝廷、大隅隼人勝之、

〔類聚國史 百五十九 田地〕延曆十九年十二月辛未、收大隅薩摩兩國百姓墾田、便授口分、

雜載